

活用事例	3 授業中に地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】緊急地震速報の活用、一次避難場所から二次避難場所までの間に一時避難場所を設定		
学校名	県立周防大島高等学校久賀校舎		
日時	平成25年11月29日(金) 10:15～		
場所	グラウンド・学校裏山	参加者	生徒・教職員

1 訓練のねらい

地震及びその後に想定される津波に対する備えを普段から整えるとともに、防災に関する意識を高める。



2 訓練の概要

- (1) 各教室における説明
 - 教室において、地震発生時の身の安全を確保する方法を伝える。
 - 一次避難場所（グラウンド）・二次避難場所（裏山）の確認をする。
 - 訓練放送を最後まで聞き、迅速に移動するように指示する。
- (2) 訓練開始の放送

「緊急地震速報対応行動訓練を開始します」
 15秒後：緊急地震速報の放送
 (アラーム音が流れる)

「緊急地震速報です。強い揺れに警戒してください。」・・・2回繰り返す。
 25秒後：地震による揺れの発生
 (効果音が流れる)
 50秒後：避難行動開始の放送

「揺れが収まりました。周囲の安全を確認し、落ち着いて避難してください。」

- 避難経路に従って、一次避難場所まで移動する。(グラウンドへ)
- 各クラスの学級委員が人員の所在と負傷者の有無の確認をして、教頭に報告する。

- 教職員については、教務主任から教頭に報告全員の確認をした後、担当者が口頭で津波警報の発令をする。



「ただいま山口県瀬戸内沿岸に津波警報が発令されました。落ち着いて、高台に避難してください。」

- グラウンドから、二次避難場所（裏山）へ全員で移動する。
 ※ 3-K→3-S→2-F→1-F の順
 ※ 担当者が先導し、最後尾は教頭
- 二次避難場所近くの広場（一時避難場所）まで移動後、人員の確認をする。
- 二次避難場所への経路を示しておく。
- 人員の確認後、体育館へ移動する。
- 体育館において、教頭から避難訓練の評価と心構えについて講評する。



3 訓練の成果と課題

【成果】
 ◇ これまで、火災による防災・避難訓練は実施してきたが、地震による津波での避難訓練は1年次生にとっては初めてであり、二次避難場所の確認ができたことは、とても有意義な訓練であった。

【課題】
 ◆ 比較的地震の少ない山口県において、生徒に意識をもたせるには、これからの指導方法や訓練の内容を工夫していく必要があると感じられた。